



Title	ささやき声によるインスタレーション
Author(s)	山口, 良臣
Citation	デザイン理論. 2005, 46, p. 194-195
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53210
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ささやき声によるインスタレーション

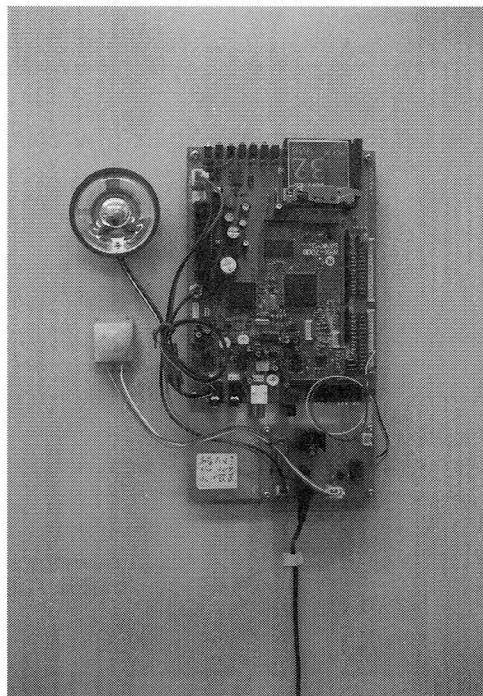
山口良臣／名古屋市立大学

この4年ほどの間、ささやき声を使ったインスタレーションを各地で発表してきた。ささやき声はいつだって自分だけに向けられているような気分にさせるが、辺りに声の主は見当たらない。いつもの場所がいつもの場所ではなくなっている、いつもと同じように見えない、あるいは、同じように感じられないといった事態を、話し言葉によって出現させられないだろうかと考えたことから、ささやき声のシリーズが始まった。

今回のパネル発表では、これまで発表してきた作品をパネルで紹介するとともに、音声ボード1枚だけの小規模なシステムを展示了た。

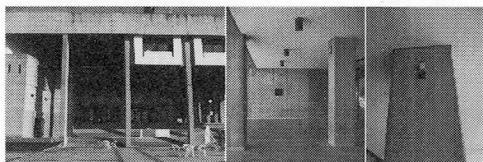
ささやき声は「あなたはどこにいるの?」、「あなたは誰?」といった質問で構成されている。それらの質問は、どのような流れの中で発せられたかによって意味も異なってくる。しかし、流れを読みとろうとしても読みとるすべはない。また、質問に答えようとしても相手はない。いわば、宙吊りにされた状態で、人はその空間にたたずむことになる。

システムは、赤外線センサーが人を感知するたびに、音声ボードに記録されたささやき声を順次再生する。



「あなたは?」/ 2004

既発表作品解説



「あかねさす」

COLD SCHOOL MS004:「講義としての芸術」

2004年10月1日-10月10日

名古屋大学豊田講堂

講堂正面の階段を上がると、かすかにささやき声が聞こえてくる。あたりの音に混じって、何がささやかれているのかすぐには聞き取れない。しばらくたたずんでいると、万葉の歌が浮かび上がってくる。装置は、I Cレコーダーと赤外線センサーを組み合わせた6組からなっている。



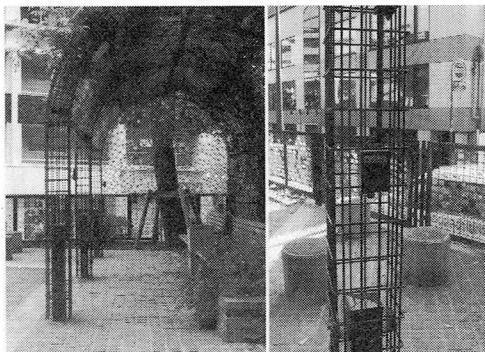
「ささやき寄席」/ 個展

2004年6月28日-7月10日

ウエストバス・ギャラリー・コヅカ/名古屋市
ギャラリー内に設置された装置に近づくと、ささやき声による落語と小唄が聞こえてくる。装置は、赤外線センサーと音声ボードを組み合わせた機器3組からなっている。

落語/遊興亭福し満

「青菜、時そば、真田小僧、猫の皿」
小唄/凡从亭志ん功



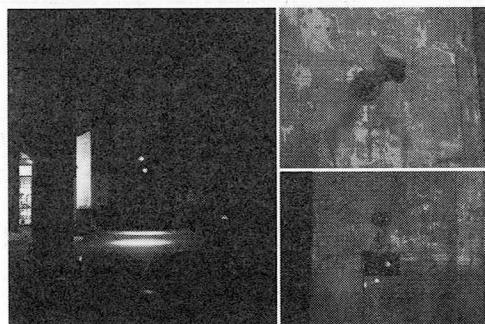
「代官山ささやき寄席」

吹寄席亭/山口良臣・遊興亭福し満・凡从亭志ん功

代官山インスタレーション'03

2003年11月22日-12月14日

代官山公園内の藤棚の下に入ると、30秒程度の小咄から7分程度の落語まで、総計で40分ほどのささやき声による嘶が左右の支柱に組み込まれたスピーカーから聞こえて来る。



「誰?」/メディアセレクト2001

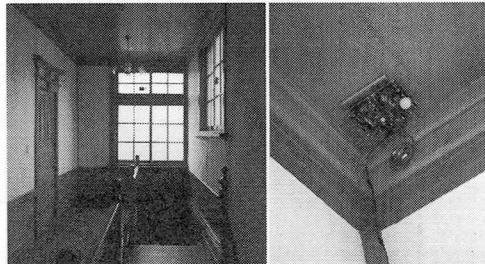
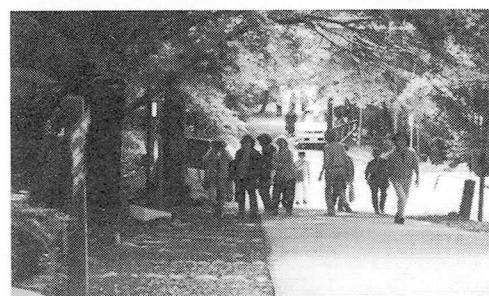
名古屋港ガーデン埠頭20号倉庫

2001年10月26日-11月4日

ほとんど何もない空間。天井から吊り下げられた電球が床に光の輪を作りだす。そこに足を踏み入れると、ささやき声が聞こえてくる。

誰だ?/誰か来た/誰なの?/誰?/誰かいる?/誰かいるの?

それぞれの柱には赤外線センサー、音声ボード、ダミー・カメラが取り付けられ、人の動きに応じて装置が作動し始める。



「いつも見てる」/つやま芸術祭

2002年1月27日-2月17日

作州民芸館/岡山県津山市

作州民芸館は大正9年(1920)建造のルネサンス様式を模した木造二階建ての建物であり、かつては銀行であった。この建物の階段室と二階廊下に赤外線センサーとオーディオプレーヤー計6組を設置した。階段室に入るとセンサーが働き、ささやき声が聞こえてくる。階段を上がるにつれ、様々なささやき声があたりが満たされる。

「見んのか?」「見えるじゃろ」「見りやあせんで」など、見ることに関連した話し言葉が津山弁でささやかれる。



「ちょっとだけ教室ミステリー」

学校が美術館2/名古屋市立千種台中学校

2000年8月26日-8月29日

椅子を積み上げた教室の中央と、周囲に並べられた机の4カ所に、計5組の赤外線センサーと音声ボードを組み合わせた機器が設置されている。人がそれぞれの場所に近付くと赤外線センサーが働き、教室で日常的に交わされるような会話がささやき声で再生される。

「ささやきの道」

芸術祭典・京/公募「京を創る」/醍醐寺・京都市

2000年5月12日-21日

道の中程に双眼鏡が据え付けられていて、近づくとささやき声が聞こえてくる。

「あんた、何してんの?」

双眼鏡を覗くと、双眼鏡を覗いている自分の後姿が見え、ささやき声が重なる。

「あんた、何見てんの?」

「あんた、何が見えるの?」

「なあ、何が見えるの?」

「あんた、見られてるよ。」